

【平成 29 年 10 月】

<認知症にやさしい地域づくり> 古川学園高等学校にて認知症サポーター養成講座を開催しました

10月5日（木曜日）と12日（木曜日）の二日間、古川学園高等学校普通学科総合コース3年生 25名を対象に認知症サポーター養成講座を開催しました。大崎市では「いつまでもいきいきと認知症になっても安心して暮らせる大崎市」を目標に「認知症みんなで発見 みんなでサポート」方式として、認知症の理解を広くすすめるために「認知症サポーター養成講座」を、地域、小学校、中学校、病院、介護事業所、企業などさまざまな場面で開催しています。高校生への講座は今回が初めてでしたが、認知症の方に出会ったら優しく声をかけたい等さまざまな感想がありました。

現在、大崎市では17,926人の認知症サポーターが誕生しています。

みなさんの地域等でも講座を通じて「認知症にやさしい地域づくり」を一緒にしませんか。

（問い合わせ）大崎市民生部高齢介護課 0229-23-6085

<地域包括ケアの構築> 「大崎地区医療介護多職種劇団」の公演を行いました

10月21日（土曜日）大崎市健康と福祉のつどいの中で、市内の医療介護の多職種が劇団を結成し、在宅医療についての劇「あしたおうちに帰ります」の公演を行いました。

この劇は、大崎地区看護職ネットワーク会議（7月15日開催）の中で、市民にわかりやすく在宅医療について伝えられないかと企画され、大崎市在宅医療・介護連携支援センターを中心に、台本、演出、すべて関係者の手づくりで、市民、医師、看護師などそれぞれが「本職」の役で登場するというもので、仕事を終えた夜に何度も集まり練習を重ね当日を迎えました。

緊張しながらも、無事公演を終え、観客の皆さんからの温かい拍手をいただきました。



<医療と介護の連携> 畑中集会所にて医師による在宅医療の健康講話が開催されました

10月24日（火曜日）午後1時から畑中集会所（古川地域）を会場に、地域のお茶っこ飲み会の方々へ大崎市医師会理事 富樫 孝 医師による「わかりやすい糖尿病 かかりつけ医や往診について」の健康講話が開催されました。

集会所いっぱいの参加者の皆さんは楽しい講話に大笑いしたり、自分ごととして真剣に話を聞いたりしていました。

大崎市医師会と大崎市では、身近な場所で「在宅医療」「地域包括ケア」について、市民の皆さんと考える出前講座を今後も随時開催していきます。



<医療と介護の連携> 大崎市医師会にて地域包括ケア推進委員会が開催されました

10月31日（火曜日）午後7時から、大崎市医師会にて「地域包括ケア推進委員会」が開催されました。今回は開設して半年を経過した大崎市在宅医療・介護連携支援センターの取組状況の報告や、6月から始まった「大崎地区医介連ネットワーク」（MCS メディカルケアステーション）の運用状況の報告があり、今後に向けた話し合いが行われました。

その他の取り組み

<医療と介護の連携>

10月18日（水曜日）大崎市在宅医療・介護連携支援センターにて事例検討会を開催

<地域ケア会議の推進>

10月23日（月曜日）大崎市自立支援型地域ケア会議を開催